

ボランティアセンター日誌



受講者13名で手話講座がスタート

7月23日(土) 手話入門講座がスタート

穴栗ろうあ協会と手話サークルひとみのメンバーを講師に、7月9日から手話入門講座が穴栗防災センターではじまった。

参加者からは「手話を使って、コミュニケーションをとりたい」と、最初の自己紹介で強い決意が感じられる言葉も聞けた。

2回目のこの日は、ジェスチャーによる伝言ゲームで、初めの頃の緊張もほぐれ会場には笑いもあり和やかに進んでいる。

これから11月の終了式をめざして、たくさんの手話を学んで下さいね。

(山崎支部 横山洋子)

ボランティアセンター日誌



ゲームコーナー「金魚すくい」

7月23日(土) 千種から被災地を支援 ちくさボランティアまつり

「参加することで被災地を支援できます。皆さん大いに参加して楽しんでください」と千種ボランティア連絡会の一坪光恵副会長の呼びかけによりボランティアまつりがスタートした。

ボランティア活動について知ってもらおうと始まったこのまつりも今年で11回目となった。町内の21グループが参加し、体験コーナー、バザー、ゲームコーナーや販売コーナーが催され、当日は約120人が来場した。

ボランティアまつりの収益67,755円が東日本大震災の被災者への義援金として届けられた。

(千種支部 小原志のぶ)

113グループに交付決定

穴栗市社協 ボランティア 活動助成金



この助成は、穴栗市ボランティアセンターに登録しているグループが、安定的かつ継続的に活動ができるよう支援するもので、今年は113グループから申請がありました。

7月14日(木)に助成金交付審査会が行われ、全113グループに交付が決定(上限15,000円)。

合計169万円を助成することになりました。

財源は、市民の皆さんからお寄せいただいた善意銀行の預託金を活用します。

グループのみなさん、有効に活用して下さい。

自分たちらしい支援を!!

～しろうエコの実～

集まった布や毛布をリユースし、可愛いカバーに生まれ変わります



被災地へ 湯たんぽを送ろう

環境問題に取り組み、家庭でできるエコロジ的な生活を実践、啓発するボランティアグループ『しろうエコの実』。「リサイクル品で自分たちらしい支援を」と被災地の寒い冬に備えて湯たんぽとカバー100個を送ることを計画し、廃品となった毛布や布の回収を市民に呼びかけ、湯たんぽのカバーを作成しています。

「いろんな人に協力してもらい作成しています。8月下旬には被災地へ届けられるようにメンバーも頑張っています。」と代表の中津八重子さん。

「震災以後、電力不足や資源不足などの問題が大きくとりだたされ、省エネ、エコといった取り組みが注目されています。自分たちにもできる身近なエコ活動を多くの人に知ってもらい、市内各地で活動を展開していきたい」と熱い思いを語っていただきました。

これからも皆さんの活躍を応援しています。

(本部 田中祥仁)